

タイトル「**2022年度スポーツ科学部(公開用)**」、フォルダ「**(共通)**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT/SSCS1106		
科目名	倫理学 2		
担当教員	先崎 彰容		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	火 1		
講義室	1309	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	総合教育科目		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	文化教養		
科目の位置付け（開発能力）	■ D P コードー学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-D〔市民的素養・市民的教養〕市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。 DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP7-C〔他者理解・倫理観・公共心〕人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 ■ C R コードー学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモン・ルーブリック（C R）との関連 C1(70%)倫理的思考・社会認識 D1(20%)市民的素養と参加 I1(10%)理解・分析と読解		
教員の実務経験	特になし		
成績ターゲット区分	■能力開発の目標ステージとの対応 1 萌芽期		
科目概要・キーワード	倫理学とは人間の生き方、人生について考える学問である。なぜ私たちは生きているのか、何のために生きているのか、死とは何かといった問いに向き合う倫理学について学び、倫理学についての過去の言葉を参考にしながら、現代社会の諸問題を考察する。授業形態は、講義により行う。 （キーワード）日本倫理思想史・自分らしさ・反近代主義 授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れます。		
授業の趣旨	■副題 近代日本の倫理学をしる ■授業の目的 近代日本における倫理思想史をとおして、日本と世界を理解する ■授業のポイント 社会的諸事象に安易に「善悪」の結論を出すのではなく、多角的に評価できるようになる		
総合到達目標	■上記の目的を達成するために、過去の時代状況を知り、現代社会を立体的・多角的に見ることができるようになる。その結果、私たちが抱えている様々な諸問題一個人的・国内的・国際的課題ーについて、一喜一憂せず、独りよがりにならず、冷静に分析するメス＝時代理解のための武器を手に入れることができる。 ■「個別行動目標」として、100年以上にわたる時間感覚を身に着けることで、現代社会を俯瞰してみることができるようになる。		
成績評価方法	■リアクションペーパー：30%(15回) 適用ルーブリック C1（70%）、D1（20%）、I1(10%)		

	(評価の観点) 適用ルーブリックに基づき、教員が行う。 (フィードバックの方法) リアクションペーパーに基づき、教員が適切な方法において解答を行なう。 ■期末のレポート：70%(1回) 適用ルーブリック C1(70%)、D1(20%)、I1(10%) (評価の方法) 講義内で取り組んだ課題消化・表現応力を正確に理解しているかを教員が確認する。 (フィードバックの方法) 教員による講評等をつうじて、フィードバックを行なう。	
履修条件	「倫理学1」を履修していることが望ましい	
履修上の注意点	特になし	
授業内容	回	内容
	1	① 授業テーマ ガイダンス ② 授業概要 授業内容の説明、スケジュール、および成績評価方法について説明を行う。「倫理学2」で学生諸君に求める到達目標なども、あらかじめ明示する予定である。(D1) ③ 予習(120分) ガイダンスに先立ち、『維新と敗戦』の「あとがきに代えて」を読んでもおく。 ④ 復習(120分) ガイダンスで示した参考文献について、図書館等で手に取ってみる。
	2	① 授業テーマ 日本倫理思想史入門 ② 授業概要 「日本倫理思想史入門」と題し、歴史上の思想家・文学者が「倫理」をどう考え、それを当時の社会分析・時代診断にどう生かしていたのかを例示する。今後の授業運営がどのようなかたちで行われるかの、一例を示す講義となろう。「倫理学」のイメージを描く、きっかけを得られるようになる。(C1) ③ 予習(120分) 『維新と敗戦』の「はじめに」に目を通しておく。 ④ 復習(120分) 講義で使用したプリントを参照し、日本倫理思想史とは何かについて感覚を鍛えておく。
	3	① 授業テーマ 明治倫理思想における「国家と人間①」——福澤諭吉と中江兆民 ② 授業概要 明治時代とは何なのか。なぜ、現代社会を生きる私たちにとって学ぶ必要があるのか。福澤諭吉と中江兆民という、名のみ知られ、ほとんど読まれていない思想家の文章を取りあげる。そのことによって、彼らの時代診察を知り、結果、彼らがどのような処方箋を時代に下したのか。それは現代の私たちが生きる上で、何を投げかけるかを考察できるようになる。(C1・I1) ③ 予習(120分) 『維新と敗戦』の福澤諭吉・中江兆民に該当する部分を通読しておくこと。 ④ 復習(120分) 講義の内容をふまえて、もう一度、『維新と敗戦』の該当部分を読み直して理解を深める。
	4	① 授業テーマ 明治倫理思想における「国家と人間②」——北村透谷と岡倉天心 ② 授業概要 明治時代も中期に入ると、時代の雰囲気は一変する。それは倫理思想にも変化をもたらした。北村透谷と岡倉天心という、馴染みの薄い人物たちが格闘した「課題」とは何か。それを知ること、意外な程、21世紀を生きる君たち若者にとって身近なものとなるだろう。(C1・I1) ③ 予習(120分) 『維新と敗戦』の北村透谷・岡倉天心の部分を通読しておくこと。 ④ 復習(120分) 講義の内容を踏まえたうえで、もう一度、『維新と敗戦』の該当部分を読み直し、自分なりの考えをまとめる。
	5	① 授業テーマ 明治時代の終焉と倫理思想——石川啄木と日露戦争 ② 授業概要 明治末期になると、「国家」よりも「個人」を重視する時代を迎える。そのとき、若者たちの心理に劇的な変化が生まれた。石川啄木という、中学校の国語教科書でしか見たことのない人物が、実はきわめて優れた時代診察の文章を遺している。それを読むことで、明治末期の倫理思想をまとめたい。明治時代を思想史の観点から、把握できるようになる。(C1・D1・L1) ③ 予習(120分) 石川啄木について、高校までの知識でどんなイメージを持っているのか、簡潔にメモをとる。 ④ 復習(120分) 講義の内容をふまえたうえで、石川啄木および、明治時代全体のイメージをつかみ直してみる。
	6	① 授業テーマ 大正時代の倫理思想①——三木清の「人間学」 ② 授業概要 大正時代に入ると、本格的な日本に独自の倫理学が登場する。その代表格のひとり三木清は「人間とは何か」をドイツ・フランスの哲学・倫理学を学びつつ確立した。第6回目となる講義では、広くヨーロッパ倫理思想まで見渡しつつ、日本の思想を見てみることにしたい。(C1・D1・I1) ③ 予習(120分) 『維新と敗戦』の中から、石川啄木および三木清の部分を読み進め

	る。 ④ 復習（120分）講義の内容をふまえたうえで、『維新と敗戦』の該当部分をもう一度、読み直す。
7	① 授業テーマ 大正時代の倫理思想②——和辻哲郎の「人間学」 ② 授業概要 大正時代に登場したもう一つの巨大な倫理学、和辻哲郎の倫理思想を検討する。夏目漱石門下の和辻は、『古寺巡礼』や『風土』などの著作をのこした独自の思想家であるとともに、著作『倫理学』・『日本倫理思想史』でも知られる、日本倫理学の巨人である。彼の生涯も追いかけて、日本において最高度の達成である倫理学をまなび、私たちにとって「倫理」とは何かを深く、考えるきっかけを得られるようになる。（C1・D1・I1） ③ 予習（120分）『維新と敗戦』のうち和辻哲郎について読み進めておく。 ④ 復習（120分）講義の内容をふまえたうえで、和辻の著作のうち『風土』『古寺巡礼』『人間の学としての倫理学』いずれかを図書館等で手に取ってみる。
8	① 授業テーマ 昭和期の倫理思想①——和辻哲郎の「倫理学」 ② 授業概要 「和辻倫理学」とも呼ばれる巨大な足跡は、大正時代を超えて、戦争へと向かう昭和期に入って最終的な完成をみた。むずかしく見える彼の理論は、実は、「昭和」と「戦争」の深い影響のもとにつくられたものでもある。第8回目となる本講義では、和辻哲郎の倫理思想を、戦争という時代状況において、立体的に把握することにする。「危機の時代」という点で、それは東日本大震災を経験した、現在にすら、リアルなものに見えるだろう。（C1・D1・I1） ③ 予習（120分）先の「戦争」について、興味を持ってそうな文献を図書館で探し出し、タイトルとその理由をまとめておく。 ④ 復習（120分）講義の内容をふまえたうえで、倫理思想史の観点からみた「戦争」のイメージで、新たに得られた知見をまとめてみる。
9	① 授業テーマ 昭和期の倫理思想②——日本のロマン主義 ② 授業概要 昭和期には、戦争へむかう時代状況のなかで、様々な「改革案」が叫ばれ、提案された時代だった。なかでも「ロマン主義」と呼ばれる文学芸術運動は、危機の時代の人間がどのような存在なのかを深く思索した思想家を生み出した。本講義では、複数の人物を取りあげつつ、過酷な時代を生きた人びとが何を考えていたのかを学ぶ。（C1・D1・I1） ③ 予習（120分）『維新と敗戦』の中から、保田與重郎の部分を読んでおく。 ④ 復習（120分）広義の内容をふまえたうえで、『維新と敗戦』の伊東静雄・萩原朔太郎の部分を読んでみる。
10	① 授業テーマ 戦前の倫理思想をふりかえる——これまでのまとめ ② 授業概要 第10回目となる本講義では、これまでの明治・戦前期の講義をふりかえり、まとめる授業を展開する。具体的には、これまで取りあげた思想家の発言を通史的に復習し、倫理学とは何かについて、一定の定義を施したい。また戦前の日本倫理思想史を学ぶことで、戦前イメージを描けるようになる。（C1・D1・L1） ③ 予習（120分）これまでの使用プリントにざっと目を通しておく。 ④ 復習（120分）講義の内容を踏まえたうえで、高校までの歴史の授業で疎かにされてきた近代日本の歴史・思想史に一定の見取り図を獲得する。
11	① 授業テーマ 戦後の政治と倫理思想——江藤淳と丸山眞男 ② 授業概要 戦争体験をふまえて、戦後には多くの思想が生まれた。本講義では、江藤淳と丸山眞男という、対照的な二人の人物が考えた「理想の日本人像」を考えてみる。それは言い換えれば、理想の人間の生き方、あり方を語っているのであり、明確に倫理学だと言える。それぞれの人間イメージは大きく違っているが、その違いは私たちに何を投げかけるのか？「倫理学1」とは異なる角度と時代の発言に注目する。（C1・D1・L1） ③ 予習（120分）『維新と敗戦』の中から、江藤淳について読んでおくこと。 ④ 復習（120分）講義の内容をふまえたうえで、『維新と敗戦』の丸山眞男についても、読んでみる。
12	① 授業テーマ 戦後の文学と倫理思想——坂口安吾と三島由紀夫 ② 授業概要 文学とは、一見すると現実とかけ離れた空想の別世界をつくりあげているように見える。しかしそれは誤りである。深刻な戦争体験を経た二人の「文学者」は、それぞれの考える戦争観、人間観、日本観をもち、それをエッセイや評論作品として残した。その言葉のなかに、現代社会にまでつながる生き方のヒント、「人間の学としての倫理学」（和辻哲郎）を探りだすことができるようになる。（C1・D1・L1） ③ 予習（120分）『維新と敗戦』の中から、三島由紀夫と坂口安吾の部分を読んでおくこと。 ④ 復習（120分）講義の内容をふまえたうえで、三島と坂口の作品のうち、読みやすい短文のものを一つ、読むことに挑戦すること。

	13	① 授業テーマ 戦後の評論と倫理思想——吉本隆明 ② 授業概要 戦争から15年を経た1960年代は、日本にとって大きな意味をもつ時代の分岐点であった。「60年安保闘争」と「68年全共闘運動」は、その象徴的な事件であった。「政治の季節」とも呼ばれるこの時代は、いった何が問題とされていたのだろうか。時代背景を説明するとともに、吉本隆明という知の巨人の発言を詳細に追うことで、その人間観に迫る。「倫理学1」とは異なる角度からの考察となる。(C1・D1・I1) ③ 予習(120分) 『維新と敗戦』のうち、吉本隆明の部分について読んでおくこと。 ④ 復習(120分) 講義の内容を踏まえたうえで、葦津珍彦、高坂正堯の部分にも挑戦してみる。
	14	① 授業テーマ 現代社会と倫理思想——バブル景気からオウム真理教事件まで ② 授業概要 「倫理学1」の授業でも取りあげた現代社会について、日本の倫理思想を学んできた今、どのように新しい見方ができるだろうか。このような問題意識に基づいて、本講義では、1980年代以降の現代日本社会を中心に論じた複数の思想家の発言をみることで、現代人はどのような社会を生きているか、その生き方はどのような課題を抱えているかを論じる。現代社会の諸問題が、この時期からの影響下にあることが分かるようになる。(C1・D1・I1) ③ 予習(120分) 日ごろ、宗教に抱いている漠然としたイメージについて、まとめておくこと。 ④ 復習(120分) 講義の内容をふまえたうえで、講義内で挙げた参考文献について、図書館等で手に取り、通読してみる。
	15	① 授業テーマ 本講義のまとめ——倫理学とは何か ② 授業概要 全14回にわたった倫理学、特に、近代日本人の倫理思想をまとめる。過去の知見を手にした今、私たちは自分の身の回りについて、他ならぬ自分自身の生き方について、目が覚めたような感覚に襲われるのではなかろうか。「2011年の東日本大震災を経験した日本を生きる人間として、どのような生き方が求められるのか」——危機管理学を学ぶ以上、こうした問いは避けることができないであろう。歴史と現在を、架橋して、複眼的に倫理学を考えることができるようになる。(C1・D1) ③ 予習(120分) 『維新と敗戦』の中から、興味を抱いた人物について2人取りあげ、その理由を事前に書きだしておくこと。 ④ 復習(120分) 講義内で作成したレポートについて、問題点等を自分で3点あげて、今後に生かすこと。
関連科目	科目コード：01010004哲学2・科目コード01010010宗教学2	
教科書	■先崎彰容『維新と敗戦』（晶文社、2018年）	
参考書・参考URL	講義中に適宜、プリントを配布する。	
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知する ■オフィスアワー 火曜日2時限 それ以外の時間について、メールにてアポイントをとれば研究室で対応する。	
研究比率		

